

経営比較分析表（令和4年度決算）

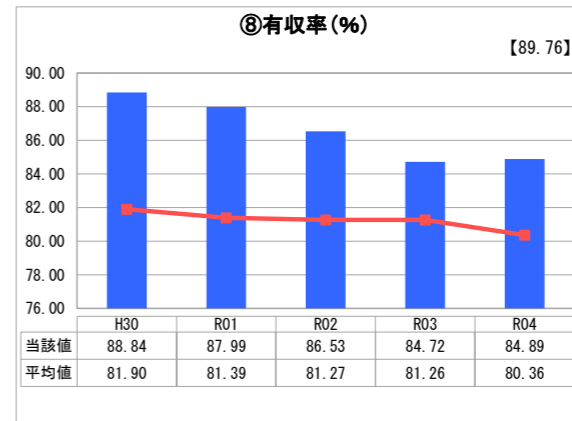
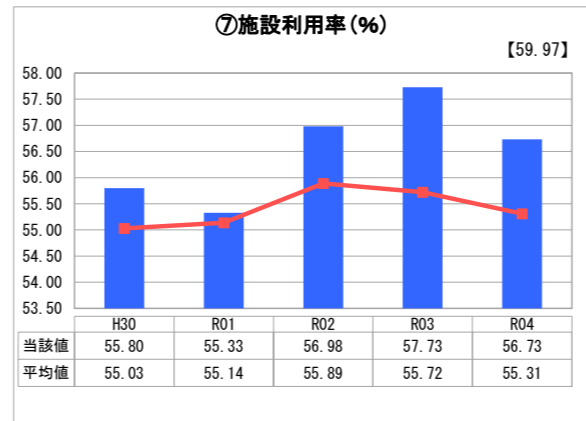
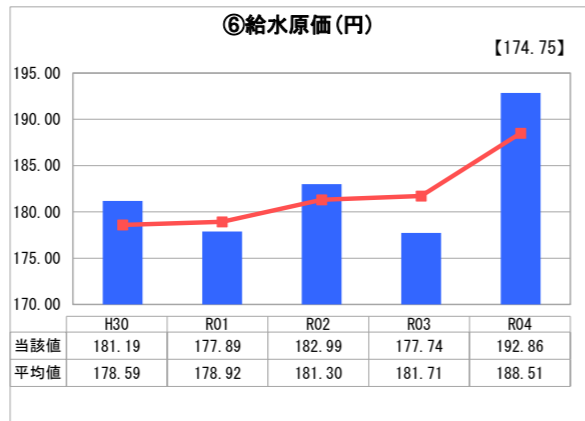
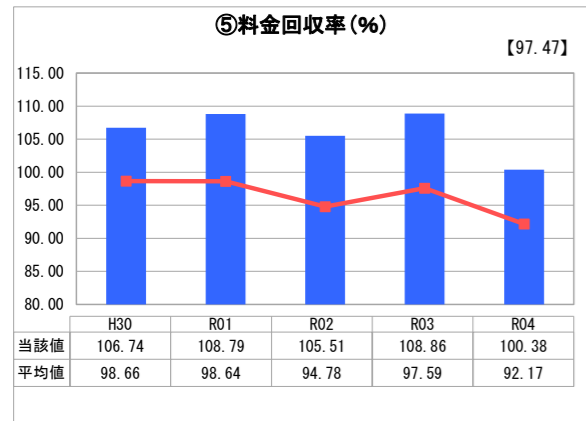
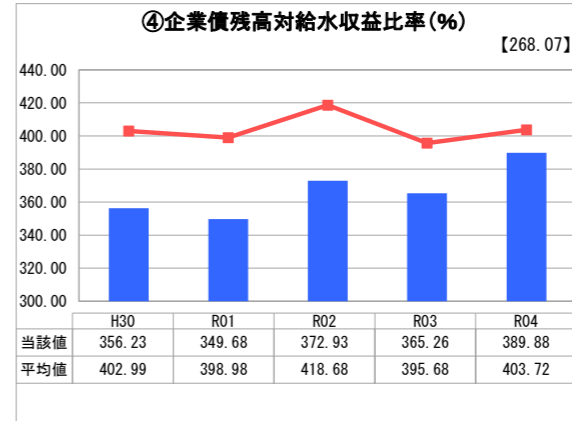
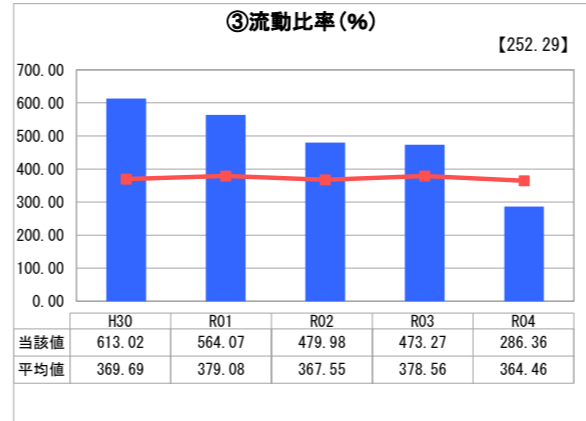
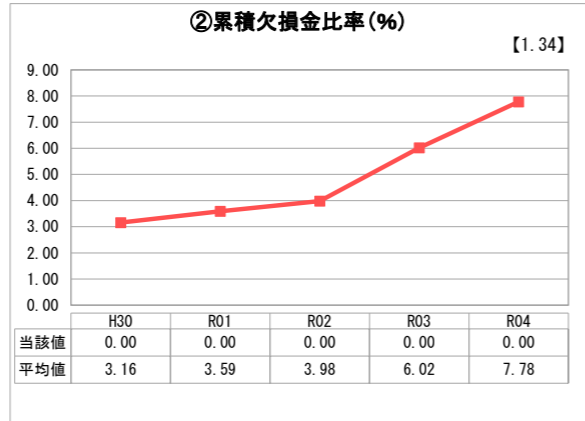
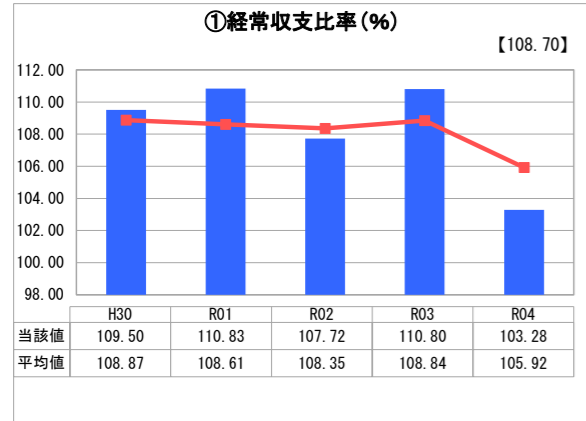
佐賀県 有田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	71.67	99.61	3,861	

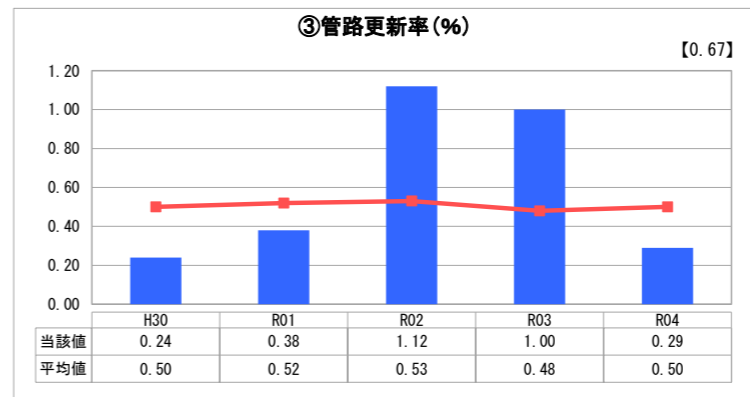
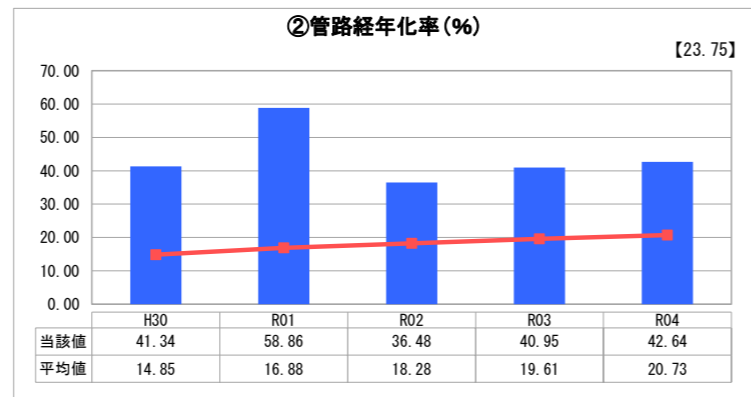
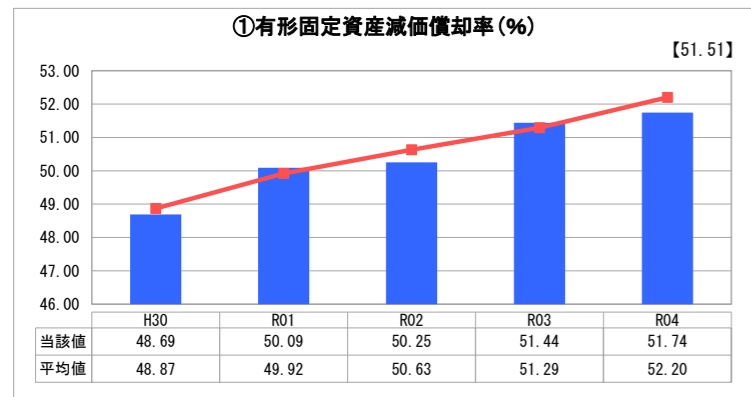
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,051	65.85	289.31
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,912	65.80	287.42

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 令和4年度の経常収支比率は103.28%であり、100%は超えているため収支は黒字だが、年々減少傾向である。また、人口減少による収入の減少に対し、光熱水費や人件費等の経費が増加していることから、料金収入で支出を賄うのが厳しい状況となっている。

② 累積欠損金はない。

③ 流動比率が減少した理由は、多数の更新工事の工期が年度末までかかり支払いが未払となったこと、固定負債だった修繕引当金を一部取り崩したことである。現金は令和3年に比べ増加しているが、料金収入によるものではなく、企業債の借入れ額の増加によるものであり、毎年度の借入れを計画的に行わなければ将来の返済額が大きくなる可能性がある。

④ 給水収益に対する企業債残高の割合が徐々に増加してきている。理由は人口減少による給水収益の減少によるものである。類似団体に比べて高い比率であるため、料金の改定を考えていかなければならない。

⑤ 100.38%で給水にかかる費用が給水収益によりぎりぎり賄われている状況である。

⑥ 給水原価がここ数年で一番高くなっており、費用が増加している。

⑦ 施設利用率はあまり変化がない。また、類似団体とも大きくかけ離れてはいない。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は徐々に増加傾向である。老朽化が進んでいる。

② 管路経年化率は類似団体と比べて高くなっており、老朽化が進んでいる。

③ 管路更新率が低く、更新がすすんでいない。耐用年数の経過した管が今後増えていくことが考えられるため、計画的に更新工事をしていかなければならない。

全体総括

耐用年数の経過した管路が約40%あり、更新を積極的に行っていく必要がある。原材料費人件費等の費用の増加に比べ、人口減少に伴い料金収入が減少していることから、事業運営に不安がある。平成18年度末に市町村合併をして以来料金の改定を行ってきていないことから、早急に料金の見直しを行い経営の安定をはかるとともに、補助金の積極的活用も行っていきたい。